

一生につなぐ毎日がここにある

JIYU

つなげよう、次の100年に向けて

自由学園 創立100周年記念事業 募金趣意書



目次

はじめに	4
ご挨拶 自由学園 理事長 村山 順吉	7
ご挨拶 自由学園 学園長 高橋 和也	9
これまでの周年事業のご報告	11
ご挨拶 募金委員長 塙 健司	13
よりよい教育を目指した学校改革について	14
創立100周年募金計画概要	18
● ICT* 教育関連設備の充実 (* 通信技術を活用したコミュニケーション) ● 探求的な学びの推進に向けた既存校舎の改修 ● 教職員人材育成基金、羽仁もと子育英基金の充実 ● 共生共学のための次世代型新校舎建設の原資 ● 羽仁先生記念館の保存整備	
100周年記念事業について	21
100周年記念行事について	21
創立100周年募金について	22
創立者について／沿革／100周年記念サイトのご紹介	24





はじめに

育みを次の100年へ

自由学園は創立者の理念を継承し、いつの時代にも変わらず大切なことを守り続け、同時に変えるべきものを変えながら成長し、発展してまいりました。そして2021年、創立100周年を迎えます。この大きな節目にむかい、今後の100年に通ずる自由学園のあるべき姿を求めて、教育内容、校舎、事業の検討を重ねております。

1950年代に、生徒たちが植林活動で植えた苗木が70年かけて成長し、2017年に建設された「自由学園みらいかん」に使われました。このように、教育とは息の長いものです。今日は明日につながり、明日は100年後に繋がります。将来の自由学園のさらなる発展と、未来を創る子どもたちのために、この趣意書をもって皆様にご寄付をお願いする次第です。





日時計（初等部）

体操会（幼児生活団幼稚園）



求めよ、さらば与えられん^{*1}

自由学園が創立100周年を目前にしたまさにその時、世界中で新型コロナウイルスの感染が起き、あたりまえだった日常が覆されてしまいました。しかし、自由学園において、この状況はただ一人の先生である主イエス・キリストから与えられた試練ではないか、と私は思うのです。私たちは日々の営みの基をどこに求めているのでしょうか。もし、自らの思いや作り上げてきたものにあるのなら、それが打ち碎かれるための大切なメッセージだと受け止めているのです。

私たちの前には、主から託された多くの子どもたちがいます。一人ひとりに神がタラントとして授けた、大人の想像する範囲をはるかに超えて伸びようとする力が潜んでいます。その力に畏敬の念を抱きつつ、子どもたちの成長を最も相応しい在り方で支えようと改めて全身全霊で求めたときに、自由学園の新たに進むべき道は希望とともに必ず指し示されると私は確信しています。

自由学園は今、新たな道と希望の実現のために学校改革に全力で取り組んでいます。ICT^{*2}環境の充実や校舎の整備のほか、具体的な必要にも迫られています。皆様にはどうかご寄付をもってお力添えをいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

^{*1} 新約聖書マタイによる福音書より / ^{*2} ICT：通信技術を活用したコミュニケーション



理事長

村山 順吉

JIYU

音楽会（於 東京芸術劇場）



新たな 100 年を目指して

自由学園は創立 100 周年を迎えます。100 年という長い歴史を通じての神様の豊かなお守りとお導き、そしてこの教育をお支えくださった多くの方々のご支援への感謝の思いは尽きません。そして次の 100 年に向かって、常に変わらぬ導き手である神様を信頼し、その導きにお応えできる神の公器としての学校の姿を目指し、祈りつつ歩みたいと願っています。

急速に変化し、不確実な要素に満ちた現在の社会状況の中、教育の在り方も世界中で問い直しが行われています。新型コロナウイルス感染症が世界中で広がり、自由学園も大きな試練の波の中にあります。命の安心と安全を守りつつ、子どもたちの成長を支えるために今私たちにできることは何か。教職員一同、保護者の皆様のご理解とお支えのもと、最善を尽くしこれにあたっています。

自由学園では創立 100 周年というこの大きな節目を前に、これまで培ってきた教育の成果を吟味し、変えるべきものと変えてはいけないものを見極め、次の 100 年に向けて未来を創る子どもたちが育つにふさわしいよりよい学校づくりに向かう学校改革に着手しています。創立者の志を継承し、未来の世代にこの教育の希望をつないでゆくために、皆様のお祈りとお力添えを賜りますようお願い申し上げます。自由学園は、これからも私たちをお支えくださる皆様と共に歩みつづける学校でありたいと思います。



学園長

高橋 和也

明日館



最高学部の校舎



インターロッキング舗装



新木工教室



しのめ茶寮





大芝生

これまでの周年事業のご報告



皆様のご寄付により、この20年間多くの事業が実現いたしました。そのときどきに、生徒や学生の学びや生活の充実をお支え顶きましたこと、深く感謝申し上げます。

80 周年事業（募金目標額8億5千万円）

- 重要文化財 明日館 動態保存事業
- 最高学部校舎 新築
- 生活創作館 新築
- 清風寮 増改築
- 東天寮 移転（旧清風二寮 増改築）
- 那須農場生徒宿舎 新築

90 周年事業（募金目標額3億円）

- 大芝生の再生整備
- 校内道路のインターロッキング舗装
- 新木工教室 新築
- しののめ茶寮開設（旧東天寮）
- 人材育成基金創設

体操会（全校入場行進）



自由学園が創立 100 周年を迎えます。

記念すべき 100 周年に際し、皆さま方お一人おひとりが持つ自由学園の 100 年への深い感謝、そしてこれからの 100 年への大きな希望に対する貴重な気持ちを、寄付という形にして、学園に連なる方々全員の参加をもってお届けしたいと思います。

皆さま方からの寄付金は、「共生共学・生活即探求」を掲げる自由学園の未来を育てる学びの環境の維持・整備（新しい時代に即したインターネット環境、校舎の改修・新校舎の建設準備）と、生徒の育英資金や教職員の人材育成に多くが充てられます。

皆様に募金をお願いしようとする今日、新型コロナウイルスは私達の日常を大きく変えてしまいました。しかし、どのような変化があっても、どのような時代になろうとも、次の世代を担う多くの子どもたちが自由学園で教育を受ける機会を創り続けること、そしてその環境の維持と充実のために、皆さま方の参加をお待ちしています。



募金委員長
埴 健司

よりよい教育を目指した学校改革について

共に生きる社会を創る学校を目指して

— 共生共学・生活即探求 —

学園長 高橋 和也

自由学園は2021年に創立100周年を迎えます。「真の自由人をつくる」「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」「生活即教育」は、変わることをない自由学園の教育理念です。現在、この理念のもと、変化する社会の課題に向き合い、未来を創る子どもたちのためのよりよい教育を目指した学校改革に取り組んでいます。2024年度からは中高の男女共学も開始したいと考え準備中です。目指す学校のビジョン、改革の中心となる「共生共学」「生活即探求」についてご説明させていただきます。

キリストをただ一人の先生として

新しい時代に向かう学校づくりは、創立者の教育理念の原点に立ち返り策定した〈キリスト教精神を根底に据えて、常に「一人ひとり」を大切に続ける学園、子どもたちも教職員も「自ら学び続ける人」になる学園、よりよい「社会をつくる人」が育ち続ける学園〉という指針のもと、一貫教育のそれぞれの段階で進めています。

この指針の土台には、私たち一人ひとりは神様によって愛され

たかけがえのない存在であるというキリスト教信仰の上に立つ人間観があります。罪ある私たち人間を御子イエス・キリストの血によって贖ってくださった神様の愛を知り、生徒も教師も共に与えられた意志の自由といのちを精一杯に生かし、キリストをただ一人の先生として神と人と共に歩む。そして神の国の実現を目指す。そのような学校であり続けることが私たちの変わらぬ願いです。

「共生共学」について

「共生共学」は、「共に生き、共に学び、共によりよい社会を創り出す学校」という学校像を示す言葉です。「共生」には以下3つの意味をこめています。

第1に、人と人の共生です。今、私たちの生活は、世界中の人々との様々な繋がりの上に成り立っています。この繋がりには世界中の人がこれまでにない形で大きな協力を生み出すことを可能にしました。しかし、一方で多様化し、複雑化した繋がりの中で、国家、民族、宗教、文化など、様々な立場や利害がぶつかり合い、対立があらわになっています。このような状況の中で、平和を実現するにはどうしたらよいでしょうか。次の100年に向けて、自由学園はこの課題に取り組めます。

自由学園は創立以来、一貫して協力してよりよい社会を創る人を育てる人間教育に取り組んできました。今後この実践の上に、今まで以上に、国や文化、性別、年齢など、さまざまな異なる背景を持った人が共に学ぶ環境を整え、多様な人々が共に生きる平和な社会を創り出す人が育つ学校を目指します。ここ数年取り組んできた国際教育・平和教育の充実もこの一環です。男女共学もこの目標に向かっての一步です。

第2は人間と自然との共生です。温暖化をはじめとする環境問題は、地球規模の危機をもたらしています。私たちには、人間中心の生き方を持続可能な生き方に転換し、地球上のすべての命あるものと共に生きる姿勢を身につけることが求められています。

自由学園ではこれまでも、自然と共に生き、自然から学ぶ様々な実践を積み重ねてきました。恵まれた自然環境は生徒たちの労作によって大切に守られてきました。これらを通じ子どもたちは、自然と共にある喜びの感情や自然への畏敬の感覚、そして生きた知識を得てきました。これらはどれも真に豊かで持続可能な世界を創り出す人に求められる最も基本的な資質です。

現在、これらの学びの一層の強化を図るべく、探求的・教科横断的に学びを深めるカリキュラムを準備しています。また飯能市との連携協定のもと名栗植林地への林道整備を進めており、今後一層、この地の有効活用が期待されます。

第3は、私たちの一人ひとり誰もが、神様の愛の中に「共に生かされている」かけがえのない存在であるという意味での「共生」です。聖書を土台に、多様な一人ひとりの個性や関心を神様から授けられた賜物として尊重し、それぞれの人がそ

の人らしくあり、かつ共に生きることができる学校を目指します。
校内のバリアフリー化も課題の一つです。

創立者羽仁もと子は世界が戦争に向かう1930年代、フランスで開催された教育者会議に参加し、キリスト教に根差す人

間教育を通じた世界平和の実現を訴えました。そして帰国後、時代に先駆けた「男女共学・国際共学」構想を描きました。今回の学校改革が推進する「共生共学」、そして男女共学は、この精神を発展的に継承するものです。

「生活即探求」について

自由学園は「よい社会は創り得る」という希望を持った人が育つ学校であることを目指して、社会に「働きかけつつある学校」として成長してきました。

次の時代を担う子どもたちの市民的資質をどのように育むか。日々の生活と教科の学びをどのように地域や世界の課題とつないでいくか。また未来の社会の優れた小さなモデルとしての学校の姿をどのように実現できるか。変化する社会にあってこれまでの取り組みを活かしつつ、よりよい実践を生み出していくことが求められます。

この課題に取り組むべく、中等科・高等科のカリキュラムとして新設を予定しているのが、「探求」と「共生学」です。

自由学園は伝統的に「学業報告会」や「張り出し勉強」など、ある期間集中して一つのテーマに取り組む学びを行ってきました。

「探求」ではこれを年間を通じて行います。各人それぞれの興味や問題意識から出発し、実生活を土台として、自ら問題を発見し、主体的・協働的に学び、問題解決に向かう力を養います。

「共生学」は、「平和」「人権」「環境」など、地球規模の共通課題（SDGs等）や地域課題などに教科の枠を超えて学際的に取り組む新設科目です。最高学部との連携、国内外の学校との共同研究、地元企業や自治体、NPOなど学外の機関との連携なども視野に入れ、構想中です。様々な知的リソースとの連携や教科の融合を通じ学びの幅を広げ、柔軟な思考力や豊かな創造性が育っていくことを期待しています。

課題解決のための学びには一般に「探究」の文字が用いられますが、自由学園では、その問いが生涯を通じた「真理の探求」「生きる意味の探求」につながることを願い、「探求」を用います。

多様な学びを可能にする学習空間の整備について

「生活即探求」の学びを支援する学習環境が「ラーニング・コモンズ」です。ラーニング・コモンズは従来の黒板に向かい机が並んだ学習空間ではなく、学び方の多様化に伴い多機能化した学びの空間です。創立100周年募金における学習環境の整備は、以下3つの要素からなる環境づくりが中心となります。

第1に、様々な情報を活用し、1人で自律的に学習に取り組むことができる個別学習エリアです。従来の図書館のイメージです。

第2に、様々なグループでの協働作業に取り組むことができる協働学習エリアです。

第3に、学び得た内容を発表し、共有し合うためのステージ及びプロジェクター等を備えたプレゼンテーションエリアです。

これらは、多様な学び方を行き来しつつ、より柔軟に、より深く学ぶことを可能にするものです。コンピューターやタブレット等を活用するための情報通信インフラの整備が前提となります。

第1段階では現存の女子部校舎、男子部校舎を活用し、多様な学びが可能となる学習空間へと改修し、第2段階で、

ラーニング・コモンズを中心機能とする新しい学びの実現のための校舎の建設に着手する計画です。

自由学園はそのキャンパスと校舎を、創立者の羽仁もと子先生・吉一先生の時代から大切に守り育んできました。遠藤新氏による南沢キャンパスは、学園の有形無形の財産です。それらを大切に継承しつつこれからの新しい学校像を具現化するという事業にあたり、外部の知見を借りながら、進めていきます。

ライト建築の特徴である「有機的建築、自然との調和、意匠性」等を継承しつつ、今回の改革指針である「一人ひとりが安心して居られる環境」「多様で主体的な学び」が促進される環境、「社会に開かれ」多様な他者と出会える環境といった諸条件を実現すべく、現在計画を立案中です。

今回の創立100周年募金計画は、変化する時代に対応し自由学園が次の100年に向けて取り組む大きな教育の挑戦です。来るべき世代に自由学園独自の人間教育を生き生きと伝え、よりよい社会の実現を目指す学校としての姿をますます輝くものとするために、皆様のお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

創立 100 周年募金計画概要

創立 100 周年を契機に、新しい時代のための教育を充実

10 年ごとの節目に、皆様から学園がより発展するためのご寄付を頂戴して参りました。創立 100 周年募金の目標額は 10 億円ですが、2024 年に共生共学という、今までにない新たな形で理想を目指す学園の学びの環境整備などに 15 億円が見込まれる事業を構想しております。

○ ICT* 教育関連設備の充実 (* 通信技術を活用したコミュニケーション)

事業予算 1 億円

実施期間 2020 年秋～

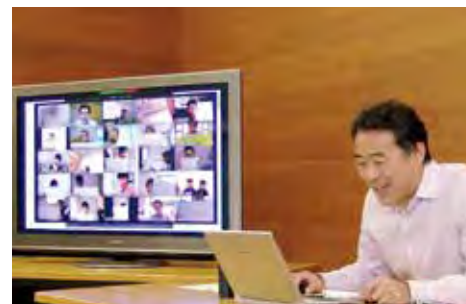
遠隔授業からさらに発展し、ICT と対面授業を統合する新しい学びに対応するための教員や生徒の機器、教室の設備等の調達、教員の研修、ICT サポート専任職員の雇用など。



デジタル顕微鏡を使った理科の授業 (女子部)



情報の授業 (女子部)



オンライン会議システムを活用した学校説明会 (男子部)

○ 探求的な学びの推進に向けた既存校舎の改修

事業予算 4億5000万円

※内、什器費用として

5000万円

実施期間 2020年秋～

生徒たちが基本構想の構築に参加

既存校舎改修にあたり、基本構想は学園の生徒たちが中心となり、建築設計事務所や大学の建築学科と共に構築していきます。

基本構想構築に参加することは、自分たちの学びを具体的に考え、同時に学びの場を自分たちで企画する「探求」という教育上の意義があり、完成された建物をどう使うかではなく、生徒自身が何をどう学ぶか自らに「問い」を立てるとても貴重な機会となります。

男子部体育館を中心とした教室棟、女子部体操館と教室棟の改修により、生徒の多様で主体的な学びを推進できる場所、集まって討議できる場所、一人で考える場所、数人が集まって話し合える場所など、探求や共生の学びを円滑に対応できるように整備。加えて、トイレや更衣室など男女共学に必要な設備を整える。



男子部体育館 外観



男子部体育館内 2階の教室



女子部体操館 外観



女子部体操館 内部

○ 教職員人材育成基金、羽仁もと子育英基金の充実

事業予算
5000万円

90周年募金でご協力いただき有効に活用させていただいております。100周年募金でも自由学園の教育理念を正しく理解し、幼児・児童・生徒・学生を指導、共に学ぶ教職員を育成するためのプログラムを拡充する。また、自由学園の思想と実践を深く理解し、共有してくださるご家庭のお子様で、経済的理由で修学が困難な方への奨学金を充実する。

○ 共生共学のための次世代型新校舎建設の原資

2024年度の男女共学化から数年かけて調整を行い、共生共学と、その先の共生共創を想定した、次世代型新校舎建設の原資とする。

男子部エリアの埋蔵文化財の調査費などを含めて
総事業予算8億5000万円の一部、3億5000万円

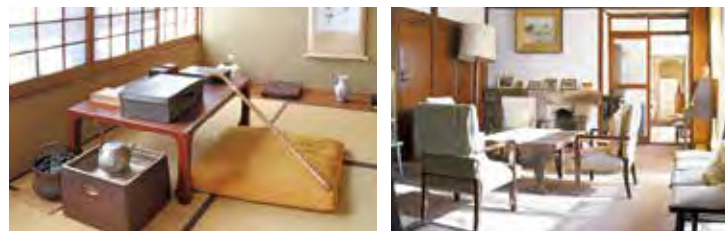


次世代型新校舎（イメージ）

○ 羽仁先生記念館の保存整備

事業予算
5000万円

目白から南沢に移転する折りに新築し、築90年を超えた創立者のご自宅の保存整備など。



100 周年記念事業について

● 自由学園100年史の出版

自由学園の教育のいのちを未来につなぐために、学校改革と共に最も重要な取り組みとして進めているのが『自由学園100年史』の編纂です。2010年に編纂準備委員会が発足してから資料調査を積み重ねた上で、編纂委員会を立ち上げて、これまで10年にわたり多くの方々のご尽力の下、編纂に取り組んできております。

現在、「Ⅰ総論、Ⅱ各部教育、Ⅲ学校から社会へ、Ⅳこれからの自由学園の歩む道」の4章からなる全600ページの全体像が整いつつあります。またこれに合わせてデジタル版「自由学園アーカイブ」の制作も進んでいます。どちらも多くの新資料に基づくもので、双方を合わせて自由学園の足跡と現在、そして未来への展望を、多面的にご理解いただける内容となります。

● 「100人の卒業生+」プロジェクト

独自の人間教育に取り組む自由学園の教育の価値が、一体どのような実を結んでいるのか、卒業生の生き方を通じて共有しています。 <https://www.jiyu.ac.jp/jgs100/>

● 地球市民教育フォーラムの開催

地球規模の現代的課題について学び、新しい社会を創るための教育の在り方を検討する「地球市民教育フォーラム」を2016年より年3回開催しています。

100 周年記念行事について

● 記念式典 … 時機が整った段階で実施致します。

● 記念教育報告会 … 2021年度（予定）

創立100周年募金について

募金概要

目標金額	募金単位	募金期間
総額 10 億円	一口 1 万円	2020 年 9 月 15 日より 2025 年 3 月 31 日まで

お申込み

『寄付申込書』にご記入の上、返信用封筒にてお送りください。

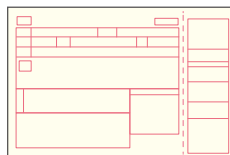
また、インターネットでもお申込みいただけます。【URL】<https://www.jiyu.ac.jp/100th/bokin.html>



ご寄付の方法

A 郵便振替の方

同封の払込取扱票にて
お振込ください。



B 銀行振込の方（※口座名義は全ての金融機関で同じです。）

下記いずれかの口座へ、寄付申込者のお名前でお振込ください。

りそな銀行
田無支店 (765)
普通 4068480

みずほ銀行
田無支店 (271)
普通 3032312

三井住友銀行
田無支店 (851)
普通 4304447

ゆうちょ銀行
〇一九支店 (019)
当座 0266140

口座名義 学校法人 自由学園 100周年募金口 がくゾウガクシヒヤクシウネホギングチ

C クレジットカードまたはコンビニ払いの方

募金申込ページへアクセスします

<https://www.jiyu.ac.jp/100th/bokin.html>



フォームに必要情報
をご入力ください

決済画面へ
お進みください

利用可能
クレジットカード



利用可能
コンビニ

セブンイレブン、ローソン
ファミリーマート など

D 銀行自動引落の方

10 口以上の方は、毎月
銀行自動引き落としをご
利用いただけます。

申込書にその旨をご記入
ください。

返礼品について

ご寄付をいただいた皆様には感謝を込めてお礼の品をご用意するほか、記念行事へのご招待をさせていただきます。

お礼の品は寄付金額に応じてご案内いたします。ご希望の方は、申込書にその旨をご記入ください。

税制上の優遇措置

● 個人の場合

この寄付は、税制上の優遇措置を受けられます。また、一部の自治体では、個人住民税の寄付金控除の対象となります。ご寄付をくださった全ての方に所得控除・税額控除に係る証明書と領収書を発行いたします。ぜひご活用ください。

● 法人の場合

企業など法人からのご寄付は、寄付金額を当該事業年度の損金に算入できます。寄付の手続きによって、損金算入の額は異なります。税制の詳細につきましては、ご担当の税理士または所轄の税務署へお問い合わせください。

募金に関するお問合せ

自由学園 創立100周年募金 事務局 〒203-8521 東京都東久留米市学園町1-8-15
TEL: 042-422-3111 (代表) FAX: 042-428-4235 E-mail: 100bokin@jiyu.ac.jp

自由学園の創立者について

「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」

自由学園は、1921年に、共にクリスチャンであり気鋭のジャーナリストであった羽仁吉一・もと子夫妻によって女学校として設立されました。

日本初の女性新聞記者であった羽仁もと子は、夫の吉一と共に、近代化する日本に自分たちが考える新しい社会を作りたいと願い、「よい家庭がよい社会をつくる」という信念のもと、1903年に月刊誌『家庭之友』（現『婦人之友』）を創刊。次に取組んだのが自由学園の創立でした。きっかけは、長女が小学校で受ける教育に疑問を抱いたことです。ある日、小数点を習ってきた長女が、「やさしいのよ。点を打つところさえ間違わなければいいの

だから」と言ったのです。機械的に知識を詰め込むだけで、ものごとの本質を教えていない教育に危機感を覚えた二人は、自分の頭で考え行動できる人が育つ、自分たちの理想とする学校を創ろうと思いついたのです。

一本のすみれのような小さな学校として出発した自由学園は、活き活きと発展を続け、1927年には初等部が、その後男子部、幼児生活団、大学に相当する最高学部が順次創設され、現在に至っています。

「こころとからだたましい」を育てる人間教育を表した創立者の言葉、「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」は、自由学園がもっとも大切にしている建学の精神です。



自由学園 沿革

1921	羽仁吉一・もと子が自由学園を目白(現・東京都豊島区)に創立 当初は女子の学校(現・女子部中・高等科)として始まる	1948	明日館に「生活学校」開校(～1973)		にご利用いただく場として公開される
1923	関東大震災の救援活動に生徒たちが参加	1949	最高学部(大学部)男子4年制、翌年女子2年制を開学	2008	「食の学び―貫教育」発表会開催
1927	小学校(現・初等部)を創設	1950	創立30周年を記念して埼玉県名栗で植林を開始	2011	東日本大震災の支援活動に全校で取り組む 創立90周年記念体操会・教育報告会開催
1930	創立者の教育理念実現を支援する組織「協力会」発足	1955	羽仁吉一逝去		90周年記念事業として自由学園クラブハウス しののめ寮を開館(現・しののめ茶寮)
1934	現在の東久留米市の新キャンパスに移転 目白の校舎は明日館(みょうにちかん)と名付けられ、 卒業生が社会に働きかける場所となる	1966	羽仁両先生記念図書館完成	2012	JYUアフタースクール開校 創立90周年記念美術工芸教育発表会開催
1935	男子部(中・高等科)創設	1981	創立60周年記念事業 記念講堂、記念体育館完成	2013	幼児生活団で未就園児と保護者の集まり「ことりぐみ」 始まる(2019年より地域子育て支援として活動)
1938	中国北京に「両国民が互いに理解しあう」ことを 願い「北京生活学校」開校(～1945)	1991	創立70周年記念事業 羽仁吉一先生記念ホール完成	2015	新木工教室完成 新名栗フィールドで里山づくり開始
1939	幼児生活団(現・幼稚園)創設	1999	最高学部を男女共修の4年課程、 および女子2年課程に改組	2016	自由学園リビングアカデミー開校
1941	那須農場開設	2001	創立80周年記念事業 最高学部校舎・生活創作館が 完成。国の重要文化財に指定され修復された「明日館」が、 見学、公開講座、結婚式、音楽会ほかイベント等で広く一般	2017	植林地で生徒が育てたヒノキを用い建築した校舎 「自由学園みらいかん」完成
1947	那須農場に「農学塾」開校(～1973)				

株式会社婦人之友社について

1903年に、今は4世代目の読者も多い『婦人之友』の前身『家庭之友』を創刊。1973年に中高年向け隔月刊誌『明日の友』、2007年に若い家庭向け季刊誌『かぞくのじかん』を創刊しました。婦人之友社、自由学園、全国友の会の拠り所とする『羽仁もと子著作集』、『羽仁もと子案家計簿』をはじめ、実用、教育、思想、教養書を出版しています。



全国友の会について

全国友の会は、1930年に自由学園創立者の羽仁もと子を中心に、『婦人之友』の愛読者により生まれた団体です。日本各地から海外まで、182友の会、約16,500



人の会員が、羽仁もと子の理想のもと、健全な家庭をつくり、社会の進歩に役立ちたいと年代を超えて学び、社会に働きかけています。

自由学園 創立100周年記念サイトがオープンしました。

自由学園ホームページ内に「創立100周年記念サイト」をオープンいたしました。

これまでの100年に感謝し、歴史を振り返り、その教育理念を再確認すると共に、自由学園は次の100年に向けて新しい歩みを始めます。

記念サイトでは、「100年ストーリー」として、自由学園草創期の女子部の生活を映した「生活即教育」の映像や、特色ある教育実践の始まりをご紹介します。また、在校生が考案した100周年記念のロゴについてもご紹介していますのでぜひご覧ください。

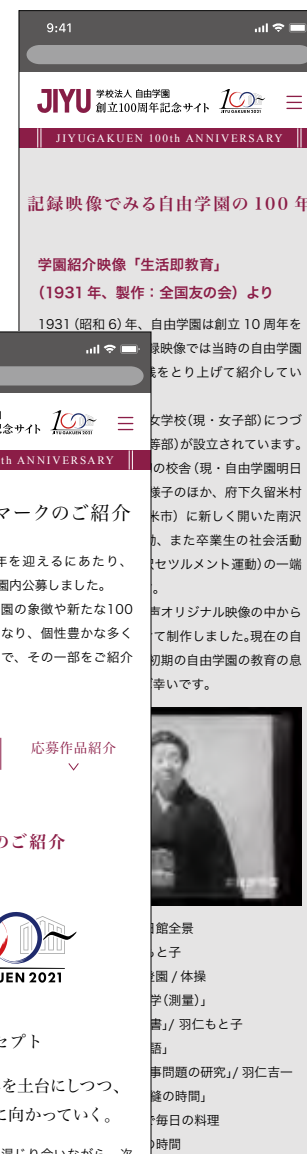
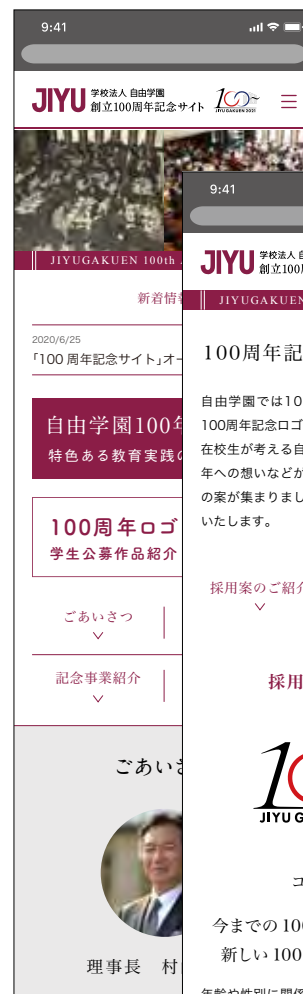
100周年記念サイトは、今後100周年関連情報を徐々に加えて更新を進めていく予定です。

是非みなさまにご覧頂ければ幸いです。

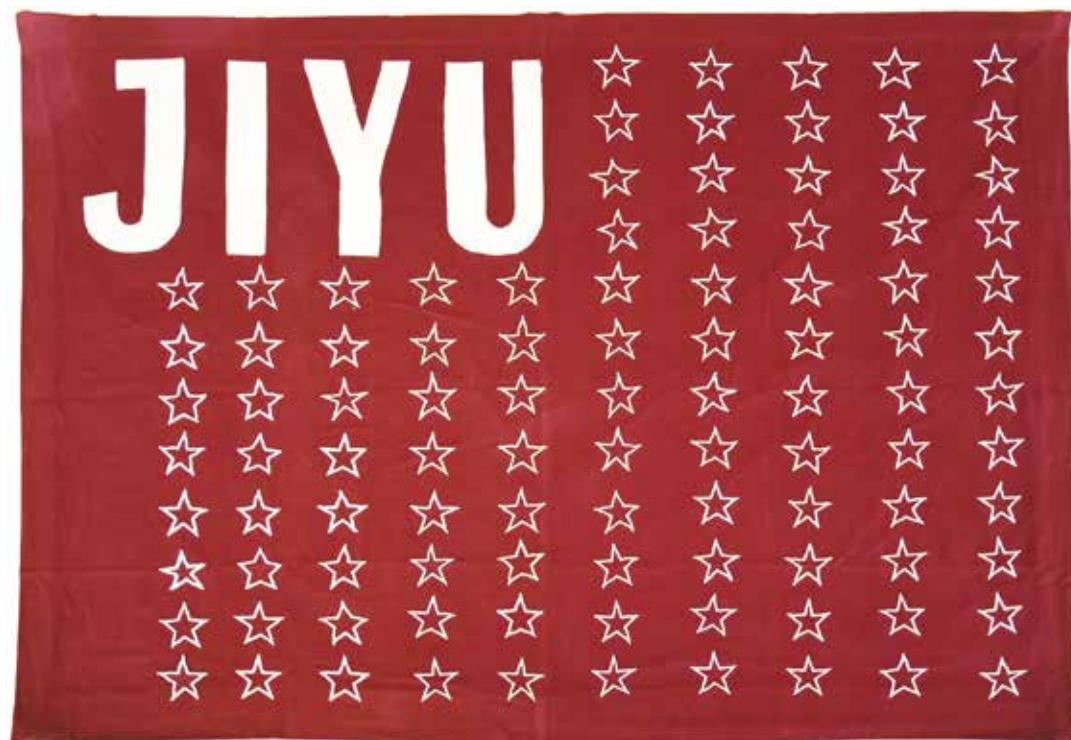


<https://www.jiyu.ac.jp/100th/>

貴重な資料映像も公開中



年齢や性別に関係なく混じり合いながら、次の100年を作っていく。混じり合うだけでなく、それぞれの部の良さを残すことも意識しています。



自由学園 創立 100 周年記念事業 募金趣意書 発行：2020 年 9 月

皆様からのご支援を心からお待ちしております。

一生につなぐ毎日がここにある
学校法人 **自由学園**

〒203-8521 東京都東久留米市学園町 1-8-15
Tel 042-422-3111 (代表) Fax 042-422-1078

自由学園公式サイト <https://www.jiyu.ac.jp/> →
100周年記念サイト <https://www.jiyu.ac.jp/100th/>

